

# 舟形町

保存版

# 防災ガイドブック

## 【震災対策編】

地震への備えはできていますか？

大規模災害時は行政も被災してしまいます。消防車や救急車も、物資も限りがあります。一人ひとりが日頃から地震発生時の行動を認識しておくことで、万が一の発災時にも混乱を最小限に防ぐことができます。

自宅や家族でできること、地域でできることを考え、住民全員の命が助かる方法を話し合い、災害にそなえていきましょう。

自分たちの地域は  
自分たちで守る。



※このガイドブックを見る所に大切に保管し、時々ご覧ください。

# 地震発生！その時の行動は！

地震が発生したとき、自分や家族が安全に身を守るには、「あわてずにいかに落ち着いた行動をとることができるか」がポイントになります。被害の規模によりますが、大地震発生から3日間は公的支援が得られない可能性があります。この期間、自分たちで乗り越えられるような行動パターンを覚えておく必要があります。

地震発生

2~5分

5~10分

10分～  
数時間

1日～  
3日間位

## 1. 本震の揺れの目安は1分間程度

- 丈夫な机の下にもぐるなどして、自分の身を守る
- 可能であれば、ドアや窓を開けて、逃げ道を確保する
- 可能であれば、コンロの火を消し、ガスの元栓をしめる

## 2. 落ち着いて周りを確認

- ガスの元栓、ブレーカーをOFF、初期消火
- 家族の安全を確認
- 靴をはく（ガラスの破片などから足を守る）

## 3. 避難準備を開始する

- 非常持出袋を確認（ムリに探さない！）
- ラジオをつけて被害情報を確認
- 電話はなるべく使用しない（回線が制限）

## 4. 隣近所と協力して避難開始

- 隣近所に声をかけて、お互いの安否を確認
- 協力し合って消火・救援活動を行う
- お年寄りや要援護の人には積極的に手をかす

## 5. 避難所生活では

- 災害伝言ダイヤルなどを活用し、離れた家族に連絡
- 食料は備蓄でしのぎ、外部からの応援を期待しない
- 壊れた家の中に入らない
- 集団生活のルールを守り、助け合い、譲り合う



### ●MEMO

#### 「地震以外の災害」

自然災害は、地震以外にも「水害・洪水・地すべり・噴火・雷・豪雪」などがあります。また、近年では「原子力・大火・化学物質・油流出」など人為的災害の発生も目立ちます。

人為的災害は、人間の注意、確認によって概ね防ぐことができる災害です。

家庭単位では日頃から、火の元・戸締りを確認し、減災につとめましょう。

### ●MEMO：地震の揺れと被害想定（参考：気象庁震度階級関連解説表）

震度0	震度1	震度2	震度3	震度4
人は揺れを感じない。	屋内にいる人の一部がわずかな揺れを感じる。	屋内にいる人の多くが揺れを感じる。釣り下がっている電灯などが揺れる。	屋内にいるほとんどの人が揺れを感じ、棚の食器などが音をたてることがある。	眠っているほとんどの人が目を覚ます。部屋の不安定な置物が倒れる。歩行中の人も揺れを感じる。
震度5弱	震度5強	震度6弱	震度6強	震度7
家具の移動や食器や本が落ちたり、窓ガラスが割れることがある。	タンスなど重い家具や、外では自動販売機が倒れることがある。車の運転は困難。	立っていることが困難。壁のタイルや窓ガラスが壊れ、ドアが開かないくなる。	立っていられない。はわないと動けず、家具のほとんどが倒れ、戸が外れてとぶ。	自分の意思で行動できない。大きな地割れや地すべり、山崩れが発生する。

# とっさの状況判断

いつ、どのような状況で大きな地震が発生するか分かりません。そんな時、**落ち着いて状況を判断し、いかに的確な行動をとれるかが、生死を左右します。**

## 屋内にいる場合



### ■料理中

- 揺れを感じて、すぐに火を消せるときは火を消します。ただし、無理をすると熱湯や油などが体にかかり大ヤケドをすることがあるので、身を守ることを最優先にします。
- 台所には食器棚、冷蔵庫、コンロの鍋など危険がいっぱいです。なるべく台所から離れます。



### ■お風呂やトイレに入っているとき

- 風呂場やトイレは比較的安全な場所といわれています。あわてて飛び出さず、可能であれば、ドアや窓を開けて、逃げ道を確保します。
- ボイラーの火、脱衣所などのヒーター（冬場）などの火の始末に注意します。

### ■寝ているとき

- ふとんや枕などで頭を守り、ベッドや机の下に隠れ、家具の倒壊に気をつけます。
- 夜間は、停電により周囲の状況が分かりにくくなります。普段から、枕元にスリッパ、懐中電灯、携帯ラジオなどを置いておくと安心です。

## 屋外にいる場合



### ■住宅街にいるとき

- ブロック塀や石壁、門柱、屋根下から離れます。倒壊や瓦の落下の危険があります。
- 電柱が倒れ、電線がたれることができます。絶対に触らないようにします。

### ■デパートやスーパーの中にいるとき

- 棚の転倒、商品の落下、ガラスの破片に注意。大きな柱や壁際に身をよせ、衣類やバッグで頭を守ります。
- 店員の指示に従い、あわてて出口に殺到しないように。パニックになり怪我をすることがあります。

### ■橋の上や川の周りにいるとき

- 橋や歩道橋の上にいるときは、振り落とされないようにしっかり手すりにつかまります。
- 堤防などは倒壊の危険があります。即座にその場から離れます。

### ■山の中や周りにいるとき

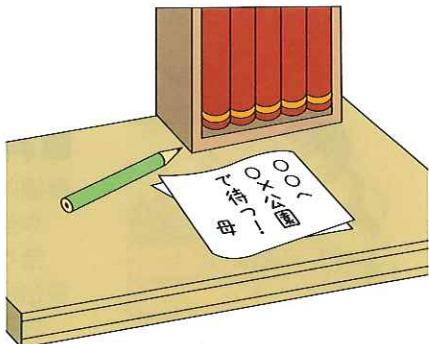
- 落石や地すべりなどが発生する可能性があります。可能な限り、平坦な空き地などで安全を確保します。
- 余震に注意し、安全な地域に避難します。

# 避難するときに注意すること

避難の指示が出されたら、すみやかに避難をします。「大丈夫だろう」と個人で判断するのは大変危険です。早めの対応で命を守りましょう。また、ご近所を気遣うゆとりが大切です。

## ●みんなで声掛け、助け合って

ひとりでは混乱してしまい、的確な判断ができないことがあります。まずは、一時的に身の安全が確保できる近くの公園や広場などに集合し、みんなで安全を確認しあい、助け合って避難します。避難経路では、ブロック塀や自動販売機など、倒れやすいものを避けて歩きます。



## ●避難後の家の安全を確保

漏電やガス漏れの危険があるので、ブレーカーを落とし、ガスの元栓を閉めます。また、緊急の場合に備え、避難場所や連絡先を書いた張り紙を、家の中の目立つところに貼っておきます。



## ●動きやすい服装で、荷物は背負って

ヘルメットや帽子で頭を保護し、靴はひもで締められる運動靴が好ましいです。また、両手に荷物を抱えていては、とっさの時に自由が制限されてしまいます。非常持ち出し品などはリュックなどに入れ、背負えるようにしておきます。

## ●道路が冠水していたら

堤防の決壊などで道路が冠水しているときは、長靴は歩きづらく、かえって危険です。滑りにくいシューズなど、あらかじめ準備しておきます。また、水面下にはマンホールや側溝が口を開けている場合もあります。長い棒などを用いて杖代わりにし、水面下の安全を確認しながら歩きます。

歩行可能な水深は50cm～70cmと言われています。腰まで水面がある場合は無理をせず、高いところで救援を待ちます。

# 避難情報の種類

災害が発生するおそれのある場合、行政は防災無線や報道などを通じ、避難を呼びかけます。すみやかな避難行動を行うため、日頃から最寄りの避難施設を確認する事が大切です。

避難情報の種類	内 容
避難準備情報	高齢者や子どもなど、避難行動に時間が必要な人が安全に避難するため、早めの避難を促す情報です。
避難勧告	災害が発生するおそれがあり、住民の避難が必要な時に発表する情報です。
避難指示	危険が迫っている時に発表する、避難勧告より強い避難命令です。

# 屋内外-我が家家の診断

## 屋内

### ① 家の中に、家具が倒れても安全なスペースを確保する

部屋が複数あるときは、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめます。無理な場合は、少しでも安全なスペースができるよう配置換えなどで工夫します。

### ② 寝室や子ども、高齢者、病人のいる部屋には倒れそうな家具を置かない

就寝中に地震が発生した場合、子ども、高齢者、病人など、倒れた家具が妨げになって逃げ遅れる可能性があるので、注意します。

### ③ 家具の転倒や落下を防止する対策をとる

家具や壁や柱の間に遊びがあると倒れやすく危険。また、家具の上に落下の危険性があるものを置かないようにします。

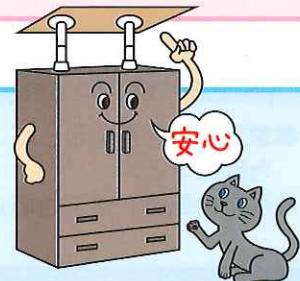
### ④ 出入り口や通路には物を置かない

安全に避難できるように、玄関など出入り口までの通路に、家具や倒れやすいものを置かないようにします。

## 屋外

### ① ベランダは常に整理整頓

- 植木鉢など、落下の危険のあるものは防止柵をします。
- ベランダから避難できるよう、常に整理整頓しておきます。



### ② ガラスの飛散防止

- 飛散防止フィルムを貼ります。
- 食器棚や額縁などに使われるガラスにも、飛散防止フィルムを貼ります。

### ③ ブロック塀が倒れないように

- 地中に基礎部分のないもの、鉄筋が入っていないものは補強します。
- ひび割れや傾きがある場合は修理します。

### ④ プロパンガスの転倒防止

- ボンベが倒れないように、鎖でしっかりと固定しておきます。

## ●MEMO: 「災害時要援護者対策」にご協力ください



この制度は、大地震などの災害に備えて、自力で避難することが困難な方を地域全体で支援するために行うものです。援護（避難支援）を必要とされる方またはその家族などの申請に基づき、町は災害時に援護が必要な方とその方を避難支援していただける方の名簿を作成します。町は町内会長、民生委員と援護の必要な方の名簿を共有し、災害時にあける安否確認などの支援に備えます。

過去の被災地では、要援護者リストがあったおかげで救われた命が多くあります。住民一人ひとりが協力しながら、地域において行政と協働し、リストづくりを進めることが大切です。

# 家族で確認！防災対策

災害は、家族が全員一緒に発生するとは限りません。日中、それぞれの用事で外出しているときに災害があきてもあわてないように、日頃から約束事を決めるなどして、よく話し合っておくことが大切です。



## ① 役割分担を決める

- 日常の予防の役割と、災害発生時の役割を決めておく。
- 高齢者や乳幼児などいる場合は、担当を決めておく。

## ③ 安全な空間を確保

- 家具の配置換えをして、家の中に安全なスペースを確保する。
- 家具の転倒、落下を防止する方法を決める。

## ⑤ 防災用具などの確認

- 消火器や救急箱、非常用品の置き場所を確認しておく。
- 消火器の使い方を覚えておく。
- 応急手当ての方法を覚えておく。

## ② 危険箇所をチェック

- 家の内外をチェックして、危険箇所を探す。
- 危ない箇所が見つかったときは、修理や補修方法について話し合う。

## ④ 非常持ち出し品のチェック

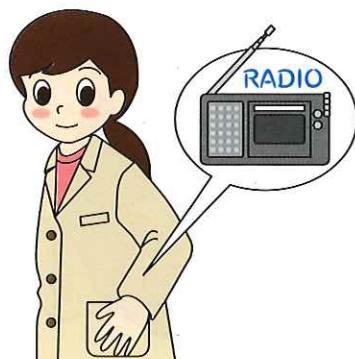
- 必要な非常持ち出し品が揃っているか、確認をする。
- 定期的に、保存状態や使用期限を点検し、交換をする。

## ⑥ 連絡方法や避難場所の確認をする

- 家族が離ればなれになったときの連絡方法や、避難場所を決めておく。
- 休日などを利用し、避難場所の下見などをしておく。
- 連絡カードを作り、家族で携帯しておく。

# 平常時に準備するもの

- 家の周りを保全する
  - ・ 雨戸、屋根、塀、アンテナ、ガスボンベなど。
- 非常持出袋を準備する
  - ・ 避難勧告や指示が出たときに動けるように、貴重品や日用品などをまとめておきましょう。
- 断水に備える
  - ・ 飲料水を確保し、また、浴槽に水をはるなどして、トイレなどの生活用水を確保しておきます。
- 停電に備える
  - ・ 懐中電灯や携帯ラジオ、予備の電池などを準備しておきましょう。



# 家庭＆町内で備える非常備蓄品

災害時に備えて準備しておくものは、家族構成を考えて必要数をそろえ、保管しておきましょう。また、非常持ち出し品は、リュックなどの非常持出袋に入れて保管し、それ以外の備蓄品とはわけてあきます。町内で何をそろえるか話し合い、地域での準備も大切です。

## 家庭で準備しておくもの－非常持ち出し品

### ■懐中電灯

一人に1つ用意。出来れば予備電池・電球もあわせて準備。

### ■非常食・飲料水

調理不要な缶詰、乾パン、ペットボトルなど3日分を用意。

### ■お金・貴重品

公衆電話の利用などに必要な10円玉、テレホンカードなど。通帳、保険証、免許証なども準備。

### ■携帯ラジオ・携帯電話

ラジオはAM・FMの両方聴取できるもの。

### ■軍手・タオル・着替え

衣類は、夏場でも長袖・長ズボンを準備。めがね、補聴器など。

### ■医薬品

常備薬のほか、包帯、絆創膏、かぜ薬、解熱剤、胃腸薬など。避難所では風邪・インフルエンザが流行しやすいためマスクも常備。



## 町内で準備しておきたいもの－公民館などで備蓄

### ■食料

缶詰、レトルト、カップ麺など。非常食3日分プラス数日間分を目安に確保しておく。

### ■水

一人当たり一日1～3リットルを目安に。ポリタンクへの汲み水、風呂桶への貯水など。



### ■カセットコンロなど

大勢の炊き出しや、冬場の備えとして準備。

### ■消火・救助用品

消火器、のこぎり、スコップ、バール、車のジャッキなど。

### ■その他

- 毛布・タオル
- 土のう袋
- ビニールシート
- 発電機・投光器

- 携帯トイレ
- 使い捨てカイロ
- チェーンソー
- テレビ・ラジオ

- バケツ・なべ
- 筆記用具・ガムテープ
- はしご・ロープ
- 救急セット
- 地図など

※大規模災害の発生直後は、ライフラインの損壊等により、救援物資が届かないこともあります。発災から最低3日分の非常食および飲料水を準備しておく必要があります。

# 【風水害対策編】

## 風水害から身を守るために

台風や豪雨は、来襲時期や規模をある程度予測することができます。日頃から天気予報を気にかけ、注意が必要な時にはテレビやラジオ等で最新の情報を収集するようにしましょう。

### 風水害に備えよう！

河川に接する低い土地や地盤がゆるく不安定な造成地は、風水害の影響を受けやすい場所です。次の点に注意しましょう。

#### ●備えのポイント

##### 洪水時の避難場所確認



ハザードマップに示された洪水時の避難場所を確認しましょう。

##### 家の内外をチェック



竜巻や台風に備え、トタンのめくれれやアンテナの状況を確認しましょう。

##### 避難順路の確認



避難場所までの安全な道順を再度確認しましょう。

#### ●1時間雨量と降り方

##### 本町の注意報・警報発令基準

やや強い雨 (1時間に20~20mm) 雨音で話声が聞き取りにくくなり、地面一面に水たまりができる。長雨になりそうな場合は、警戒が必要です。	強い雨 (1時間に20~30mm) 傘をさしても濡れてしまうほどの土砂降りの雨です。側溝や下水、小川があふれ、小規模ながけ崩れの心配があります。	激しい雨 (1時間に30~50mm) バケツをひっくり返したような激しい雨が降り、道路が川のようになります。山崩れやがけ崩れが起りやすくなります。	非常に激しい雨 (1時間に50~80mm) 滝のように雨が降り、水しぶきであたり一面が白っぽくなります。中小の河川が氾濫し、多くの水害が発生する可能性があります。	猛烈な雨 (1時間に80mm以上) 息苦しくなるような圧迫感や恐怖感を覚えるほどの猛烈な雨が降り、雨による大規模な災害発生のおそれがあります。

##### 大雨注意報

1時間雨量  
30mm以上

##### 大雨警報

1時間雨量  
50mm以上

#### ●風速と被害の程度

##### 本町の注意報・警報発令基準

やや強い風 (平均風速10~15m/秒) 風に向かって歩きにくくなります。樹木全体が揺れ、電線が鳴ります。取り付けの不完全な看板やトタン板が飛び始めます。	強い風 (平均風速15~20m/秒) 風に向かって歩けず、転倒する人も出ます。小枝が折れ、ビニールハウス等の建物が壊れ始めます。	非常に強い風 (平均風速20~30m/秒) しっかりと身体を確保しないと転倒し、立ていられなくなります。鋼製シャッターやブロック塀が壊れ、取り付けの不完全な屋外建材等がはがれ、飛び始めます。	猛烈な風 (平均風速30m/秒) 立ていられないほどの猛烈な風で、屋外での行動は危険です。樹木が根こそぎ倒れ始め、屋根が吹き飛ばされたり、木造住宅の全壊が始まります。

##### 強風注意報

平均風速  
13m/秒以上

##### 暴風警報

平均風速  
18m/秒以上

#### ひと口メモ

いざという時に備え、日頃から避難場所や避難経路を確認し、家族の連絡先等を書き込んでおきましょう。雨の降り方や土地形態の変化等により、ハザードマップに示した区域以外の所も場合によっては浸水することがありますので、十分注意してください。

# 洪水から身を守る

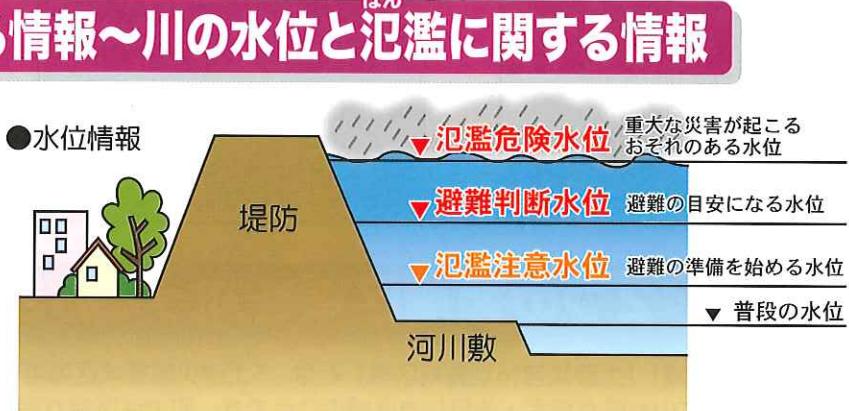
## 大雨に関する情報について

### ■大雨警報等の発表基準

種類	内容	雨量基準(山形地方気象台)
注意報 大雨注意報	大雨による災害が発生するおそれがあると予想したときに発表	1時間雨量 30mm
	河川が増水し、災害が発生するおそれがあると予想したときに発表	
警報 大雨警報	大雨による重大な災害が発生するおそれがあると予想したときに発表	平坦地 1時間雨量 50mm 平坦地以外 1時間雨量 60mm
	河川が増水し、重大な災害が発生するおそれがあると予想したときに発表	
記録的短時間大雨情報	大雨警報発表時に、現在の降雨がその地域にとって災害の発生につながるような、稀にしか観測しない雨量であることを知らせるために発表	1時間雨量 100mm
大雨特別警報	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予測され、もしくは数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予想される場合に発表	

## 洪水に関する情報～川の水位と氾濫に関する情報

河川の水位が避難の目安となります。水位観測所の水位の状況に応じて、次のような基準値が定められています。



### ■指定河川洪水予報(最上川・小国川が対象)

種類	内容	危険度
氾濫注意情報	水位観測所の水位が、氾濫注意水位に到達し、さらに水位上昇が見込まれるときに発表	※下の方にいくほど、危険度が増す
氾濫警戒情報	水位観測所の水位が、一定時間後に氾濫危険水位に到達が見込まれるとき、あるいは避難判断水位に到達し、さらに水位上昇が見込まれるときに発表	
氾濫危険情報	水位観測所の水位が、氾濫危険水位に到達したときに発表	
氾濫発生情報	氾濫が発生したときに発表	

## 山形県河川・砂防情報システム

「雨量」、「水位」、「気象・水防警報」等の河川・砂防情報がリアルタイムでご覧になれます。



- 山形県 川の防災情報〔インターネット〕  
<http://www.kasen.pref.yamagata.jp/>
- 山形県 川の防災情報〔携帯電話〕  
<http://www.kasen.pref.yamagata.jp/mobile>

# 土砂災害から身を守る

## 土砂災害の種類と前兆現象

### がけ崩れ

斜面の地表に近い部分が、雨水の浸透や地震等でゆるみ、突然、崩れ落ちる現象です。崩れ落ちるまでの時間が短く、人家の近くでは逃げ遅れも発生し、人命を奪うことがあります。



### 土石流

山腹や川底の石、土砂が長雨や集中豪雨等によって一気に下流へと押し流される現象です。時速20~40キロという速度で一瞬のうちに人家や畠等を壊滅させてしまいます。



### 地すべり

斜面の一部あるいは全部が地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象です。土塊の移動量が大きいため、甚大な被害が発生することがあります。



#### こんな前兆現象に注意!

- 斜面がひび割れる。
- 小石がばらばら落ちる。
- 木が傾いたり倒れる。
- 木の根が切れる音がする。
- わき水が止まる。あるいは噴き出る。

#### こんな前兆現象に注意!

- 雨が降り続いているのに、川の水が減る。
- 川が急にごつたり、流木が混ざり始める。
- 木の裂ける音がする。
- 異常なにおいがする。

#### こんな前兆現象に注意!

- 流水や池等がにごる。
- 木の騒ぐ音、裂ける音がする。
- ひび割れ、段差ができる。
- 水が噴き出す。
- 道路等にひび割れ、電柱が傾く。

## 2つの警戒区域を知っておきましょう

「土砂災害警戒区域」「土砂災害特別警戒区域」とは、「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」に基づいて山形県が指定・告示した区域のことです。町では区域が指定された地域において、土砂災害ハザードマップを作成してありますので土砂災害のおそれのある区域をご確認ください。

### 土砂災害警戒区域（通称：イエローゾーン）

土砂災害が発生した場合に、住民の生命または身体に危害が生じるおそれがある区域として指定されます。

この区域では、土砂災害から生命を守るために、災害情報の伝達や避難が早くできるように地域防災計画に定められ、警戒避難体制の整備が図られます。

### 土砂災害特別警戒区域（通称：レッドゾーン）

土砂災害が発生した場合に、建築物に損壊が生じ、住民の生命または身体に著しい危害が生じるおそれがある区域として指定されます。

この区域では、開発行為の制限、建築物の構造規制や移転勧告等が行われます。

### 自宅の状況を確認しよう

#### ①自宅が土砂災害のおそれがあるか確認する

土砂災害ハザードマップや町ホームページを活用して土砂災害警戒区域・特別警戒区域を確認しましょう。



土砂災害警戒区域等に該当する場合

#### ②避難行動の考え方や風水害時避難場所を確認する

#### ③気象情報等に注意し、早めに避難する

# 風水害が実際に起きたら

避難するときは、ガケ崩れや地すべり・土石流等の二次災害に警戒し、足元に注意して避難しましょう。

## ●避難までの流れ

### 1. 最新情報を入手する



テレビ・ラジオで気象情報を確認し、最新の災害情報の入手に努めましょう。

### 2. 避難の呼びかけに注意する



役場や警察署・消防署からの避難の呼びかけに注意しましょう。

### 3. 避難勧告・指示に従う



避難の際は、役場・警察署・消防署・自主防災組織責任者等の指示に従って行動しましょう。

### 4. 避難前の確認



避難前には必ずガスや電気、火種を消したかを確認しましょう。

### 5. 安全な避難



避難路には高い場所にある道路を選び、浸水箇所では溝や水路に注意しましょう。

### 6. 避難に遅れたら



万一避難に遅れ、危険が迫ったときは、近くの丈夫な建物の高層階に逃げましょう。

## ●避難の心得

### 避難場所を確認



避難する前に、ハザードマップに示された避難場所と道順を確認しておきましょう。

### 複数人で避難



できるだけ一人での避難は避け、複数人で行動しましょう。

### 徒歩による避難



車での避難は、交通渋滞をまねきます。できる限り徒步で避難しましょう。

### 助け合い



近所の子どもや高齢者、傷病者の避難には積極的に協力し、早めの避難を促しましょう。

### 洪水時の避難の仕方

避難指示等の種類	町からの呼びかけ内容	とるべき行動
避難準備	○○地区の皆さん！大雨・洪水警報が出ました。○○川が増水しています。避難の準備をしてください。	いつでも避難できるように、避難の準備をしましょう。テレビやラジオの放送、役場からの広報に注意しましょう。高齢者や子どもは、早めに避難させましょう。
避難勧告	○○地区の皆さん！避難勧告が出されました。洪水のおそれがありますので避難を始めてください。	お互いに助け合って、指定された避難場所に速やかに避難を始めましょう。(避難は徒步で。車の使用はやめましょう。)
避難指示	○○地区の皆さん！避難指示が出されました。洪水の危険が迫っています。直ちに避難してください。	指定された避難場所に直ちに避難しましょう。(避難は徒步で。車の使用はやめましょう。)

### ひと口メモ

風水害・土砂災害の被害は、地形と深い関係があるため、過去の被害情報が役立ちます。昔から住んでいる人等に過去にどのような災害があったのか聞いてみましょう。

# 連絡先・伝言ダイヤル・持出品リスト

## ●緊急時の連絡先

連絡先	
舟形町役場	32-2111
消防南支所	32-2101
警察署 舟形町駐在所	32-2102
長沢駐在所	33-2012
ふなしん(舟形診療所)	32-3300
緊急時の通報	
まず一呼吸あいてから、119番をダイヤルする。	
<b>消防車</b> ① 自分の名前 ② 場所（どこで） ③ どうした（災害の状況）	<b>救急車</b> ① 自分の名前 ② 場所（どこで） ③ だれが（女性・男性・子どもなど） ④ どうした（ケガの状況）
<b>例文（1）</b> こちらは舟形町〇〇番地の〇〇です。うちの2件北側の家が火事です。（もしくは「〇〇番地が火事です」）至急、消防車をお願いします。	<b>例文（2）</b> こちらは舟形町〇〇番地の〇〇です。先ほどの地震で、隣の家の前で〇〇さんがブロック塀の下敷きになつてケガをしました。至急、救急車をお願いします。

## ●災害用伝言ダイヤル

災害時は電話回線が制限され、電話が非常に通じにくくなります。

離れた家族や知人に対してメッセージを残し、聞くことができるのがこのサービスです。

### 災害用伝言ダイヤル

**171**

伝言録音は 伝言再生は

↓  
**171**      ↓  
**171**  
↓  
**1**      ↓  
**2**

市外局番からの電話番号 市外局番からの電話番号



## ●非常持ち出し品チェックリスト

- 準備する際に、このリストを参考にチェックしてください。
- 飲料水、非常食、電池などは必ず交換した日を記入しましょう。

品 名	交換日	交換日	品 名	交換日	交換日
□非常食（ ）	月 日	月 日	□ティッシュ	月 日	月 日
□非常食（ ）	月 日	月 日	□タオル	月 日	月 日
□非常食（ ）	月 日	月 日	□ビニール袋	月 日	月 日
□飲料水	月 日	月 日	□衣類（ ）	月 日	月 日
□携帯ラジオ（電池）	月 日	月 日	□衣類（ ）	月 日	月 日
□懐中電灯（電池）	月 日	月 日	□軍手・手袋	月 日	月 日
□ろうそく	月 日	月 日	□ライター	月 日	月 日
□ヘルメット（ずきん）	月 日	月 日	□ナイフ	月 日	月 日
□缶切り・栓抜き	月 日	月 日	□紙皿・紙コップ	月 日	月 日
□	月 日	月 日	□	月 日	月 日